

第5回平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和7年8月29日（金）13：30～15：00

場 所：アクロス福岡 7階 大会議室

出席者：福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長

直方市 田辺土木課長（代理）

田川市 大森都市計画課長

行橋市 土肥都市政策課長

小竹町 古賀企画調整課長

香春町 國安まちづくり課長

糸田町 藤村地域振興課長

赤村 田中総務課長

福智町 木村企画振興課長

みやこ町 吉武行政経営課長

九州運輸局交通政策部 小堀交通企画課長

九州運輸局鉄道部 井料計画課長

九州運輸局福岡運輸支局 辻首席運輸企画専門官

警察本部交通部 篠原交通規制課長補佐（代理）

平成筑豊鉄道（株） 河合代表取締役社長

西日本鉄道（株）自動車事業本部計画部 井上計画担当課長

JR九州バス（株）常務取締役 吉住企画運輸部長

太陽交通（株）交通事業部 野田旅客課長

筑豊地区タクシー協会 四元専務

北九州市立大学副学長 内田教授

九州産業大学理工学部情報科学科 稲永教授

福岡県企画・地域振興部市町村振興局 政策支援課 田上地域政策監（代理）

福岡県保健医療介護部 白垣医療指導課長

福岡県商工部観光局 観光政策課 西田係長（代理）

福岡県教育庁教育振興部 古島高校教育課長

福岡県教育庁教育振興部 吉武特別支援教育課長

福岡県企画・地域振興部交通政策課 秋田企画監

1 開 会

- ・事務局から委員 27 名中 27 名出席し、出席者が過半数を超えているため、協議会が成立していることを報告。

（平成筑豊鉄道沿線地域公共交通協議会設置要綱第 6 条第 2 項）

2 議事（１）平成筑豊鉄道沿線地域に関する基礎データ

○事務局から、資料 1 により説明。

【質疑応答】

（九州産業大学理工学部情報科学科 稲永教授）

- ・この地域におけるタクシー事業者の情報は入っているのか。
- ・今後のこの地域の足を様々な形で担っていただく事業者になるため、明記された方がよいと思う。

（事務局）

- ・タクシー事業者について一部データがいただけない場合もあるため、今後、検討して記載できる分については、記載していきたい。

（福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長）

- ・タクシー事業者も地域交通の担い手であり、重要なこと。

3 議事（２）事例紹介②（路線バス転換）

○事務局から、資料 2 により説明

【質疑応答】

（北九州市立大学副学長 内田教授）

- ・路線バスに転換した事例は、日本全国に多数あると思うが、留萌線と長野電鉄の屋代線を選んだ理由は何か。
- ・ＪＲ路線と民間鉄道だが、第三セクター鉄道の事例はなかったのか。

（事務局）

- ・第三セクターの事例は、確認できるものがなかったという点と留萌線については、直近の事例ということで、運輸局からの紹介で視察させていただいた。
- ・長野電鉄については、転換に至るまでの詳細な話を伺えるということで、河合社長にもご協力もいただき、ご紹介いただいて伺ったところ。

(平成筑豊鉄道(株) 河合代表取締役社長)

- ・視察先選定の補足になるが、第三セクター鉄道が廃線になった事例は5つあるが、全線廃線になった場合、会社がなくなるため、調査が出来ない。
- ・長野電鉄は、法定協議会という枠組みで鉄道の存廃を決定している、比較的新しい事例。
- ・先ほど申し上げた第三セクター3社は、法定協議会を経ずに、会社や自治体の意向で廃止したもので、長野電鉄が参考になるのではないかと思い、県とも相談し、視察を行ったところ。

(北九州市立大学副学長 内田教授)

- ・長野電鉄は一部路線を廃止したケースだと思うが、平成筑豊鉄道も一部路線を廃止する可能性があり、その視点もあって長野電鉄を選んだということか。

(事務局)

- ・一部だけをバス転換するという前提で、視察をお願いしたというわけではない。

(九州運輸局福岡運輸支局 辻首席運輸企画専門官)

- ・留萌線は、2段階に分けて鉄道を廃止しているがその理由は何か。
- ・様々な理由が考えられるが、運転手不足が原因だったのか。

(事務局)

- ・鉄道の利用者は高校生が多いため、在学生のことを考慮したのではないかとのことであった。

(西日本鉄道(株) 自動車事業本部計画部 井上計画担当課長)

- ・長崎県の松浦鉄道が、一部区間の廃止を検討したが、沿線のバス運転手不足や鉄道と並行しているバス路線の廃止があり、当面は現状維持という報道を見た。
- ・同じく長崎県の島原鉄道についても、鉄道を維持するか否かの議論をする中で、「バス運転手が不足している中のバス転換は現実的に厳しい」という話もあった。
- ・全国の中で、鉄道廃止を検討したが、結局存続したという事例もあるかと思う。
- ・鉄道廃止を検討したが、結果として鉄道維持になった事例についても、紹

介いただけないか。

(事務局)

・これまでの協議会の中で、上下分離方式で鉄道を維持した事例は紹介させていただいたところ。

(西日本鉄道(株) 自動車事業本部計画部 井上計画担当課長)

・バス運転手を確保できない状況が、なかなか改善されない、今後も厳しいという中で、ご紹介いただいた事例の転換当時と現在は、環境が変わってきていると思う。

・平成筑豊鉄道と状況があまり変わらないと思われる松浦鉄道や島原鉄道が、バス転換が困難なため鉄道を維持しようとしていることは、これまでと流れが変わってきたということだと思う。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

・現在、実現が可能なものとしてどういったものがあるかということでサウディング行っている。今後、調査結果について報告があると思うが、その点も踏まえ議論していただきたい。

4 議事(3) 本協議会における調査事項(学生関連利用実態調査報告)

○事務局から、資料3により説明

【質疑応答】

(福岡県教育庁教育振興部 古島高校教育課長)

・調査結果について、内容がかなり詳しく記載されている。

・例えば、10、11、13、14ページは、通学利用時の学校別の乗車駅の内訳について、通学経路や通学時間帯にかかわる詳細な情報が含まれている。

・8、29ページは、各学校の通学利用者や定期券購入者の住所の内訳が記載されている。

・これらは重要なデータであるが、個人特定や防犯上の観点から、外部公表は控えていただきたい。

(事務局)

・記載している情報では、個人が特定されることは低いと思うが、ご懸念のとおり、防犯上の観点から該当ページは、非公表とさせていただく。

(田川市 大森都市計画課長)

- ・非公表とする資料の内容は、鉄道を維持していくのかを判断していく時に重要なデータになると思う。
- ・今後、議会で議論していく中で、非公表になるとデータがない中で議論しなければいけなくなり困る。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・10、11、13、14ページは、通学時間帯がわかるため、防犯の観点で非公表が望ましいと思う。
- ・8、29ページについては、利用者の住所は市町村までしか記載されていないため、個人情報・防犯上の観点では問題はないかと思っている。
- ・議会への説明については、防犯上の観点で機密性が担保されるのであれば、一定程度情報共有することは可能だと思う。
- ・防犯上の観点も含めて公表の仕方については、座長に一任いただきたい。

(田川市 大森都市計画課長)

- ・本市議会では、議会に説明した資料はすべて公表という形になっているため、一部非公表にできるか議会と相談する。

(みやこ町 吉武行政経営課長)

- ・17ページの平成筑豊鉄道以外の通学手段を持たない生徒がこれぐらいいるという情報は重要であるため、公表できるようにしていただきたい。

(行橋市 土肥都市政策課長)

- ・非公表とする場合でも、すべてを非公表とするのではなく、防犯上問題ない部分だけ、各市町で抽出し公表するような形が可能か検討いただきたい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・今後、そういった観点も含めて必要があれば、協議させていただきたい。

(九州運輸局交通政策部 小堀交通企画課長)

- ・今回の集計結果からどのような傾向が見えるのかということが、関係者の中で、食い違いが出ることを防ぐために、分析結果を共有してもらった方がよいと思う。

(北九州市立大学副学長 内田教授)

- ・生徒に協力いただいてできたデータであるため、どう読み込んでいくかが重要。
- ・例えば、田川科学技術高校は、大藪駅・下伊田駅・田川市立病院駅に分散して利用している。生徒によっては、乗り換えをしたくないため、下伊田駅から乗って下校している。こういった様々な利用パターンも分析してもらえるといいと思う。
- ・対象校の位置図において、田川市立病院駅が隠れているため、隠れないように修正いただきたい。

(福岡県企画・地域振興部 窪西交通政策課長)

- ・ご指摘いただいた視点も含めて、引き続き協議会の中でも議論していけたらと思っている。

(JR九州バス(株) 常務取締役 吉住企画運輸部長)

- ・2つの調査結果を見ていくと、平成筑豊鉄道を利用している生徒が1,000人を超えているということを認識しなければいけない。
- ・この人数を含めてバスで運ぶのは、かなり困難なこと。
- ・公共交通モードで通学する生徒を救うということが本来の姿であると思うが、通えない生徒については、学校によっては原付を認める・スクールバスなど、自衛策を含めて、検討していかないと、バス運行のみでは厳しいと思う。

5 議事(4) その他

○事務局から、資料4により説明

【質疑応答】

(田川市 大森都市計画課長)

- ・路線バス転換案調査については、鉄道維持案・BRT案との、金額面での比較だけでなく、それぞれ案のメリット・デメリットを含めた資料を作成いただきたい。
- ・例えば、所要時間・運賃・運行本数がどうなるのかなどの項目を含んだ資料にしていきたい。

6 閉 会